第５節　高校２年生

国際理解と平和　沖縄に学ぶ

大　羽　　徹・鈴　木　克　彦
杉　山　貴　一・西　川　陽　子
長　瀬　加代子・中　野　和　之

【抄録】 高校２年生の総合人間科では、「国際理解と平和」を大テーマに１１月の沖縄研究旅行と連動したグループ研究を行う。本年度は、昨年度と同様、沖縄を総合的に捉える中での平和のあり方を念頭において研究を進めていくことを意図した。

【キーワード】 国際理解　平和　グループ研究　沖縄　基地問題　沖縄戦

１．テーマ　国際理解と平和

サブテーマ　　沖縄に学ぶ

２．学年目標、ねらい、伸ばしたい力など

・学年目標

グループ学習を通じて学び合い、相互理解を深め、協力して問題解決にあたる姿勢を持つ

・ねらい

現在の沖縄の問題から、現代の世界が直面する「国際理解」の問題、「平和」の問題を考えさせる

・伸ばしたい力

・現在の問題を認識し、その原因を探っていく力
・現在の諸問題の関係性を認識し、整理・分析する力
・グループで協力して課題を設定し、その課題を解決する力

３．活動内容

・沖縄のプレ研究を通じて、フィールドとしての沖縄について、基本的な知識を身につける。
・自分たちのテーマを選び、ＦＷを行い、研究することで、今の沖縄における「国際理解」「平和」とは何であるかを考える。
・集録執筆・発表を通じて、自分たちの研究をまとめ、かつ他のグループとの研究・体験の共有をはかる。

４．評価方法

・教員による評価（ワークシートへの記入・提出、ＦＷ等への取り組み、集録）
→ワークシート・集録の完成度、課題の提出状況、作業への参加状況など
・生徒自身による自己評価（アンケート、発表や一年間の振り返り）
→事前事後アンケートの比較など
・生徒間の相互評価（ディスカッション、グループ作業、発表）
→話し合いへの参加状況、作業での寄与度、発表の完成度など

５．系統性

・前年度とのつながり

高校１年生は、個人研究でテーマの追究方法を学んだ。

２年生は、昨年身に付けたテーマの追究方法を活かしながら協力して、グループ研究を行う。他のメンバー、クラス、学年で学び合う。

・「持続可能な開発のための教育」（ＥＳＤ）との関わり

フィールドとしての沖縄の諸問題（本州とは異なる沖縄の歴史的位置・戦争の問題・米軍基地問題・自然破壊問題など）は、現在の国際社会が抱える諸問題の縮図と言える。沖縄の諸問題を自分たちにつながる問題と認識し、その解決策を探ろうとする今年度の学習はＥＳＤという点でも意義のあることだと思われる。

６．授業計画

（前期）

回	日	授業内容（予定）	使用教室
1	４／11	オリエンテーション （高２総人概要、プレ研究の説明）	図書館
2	４／17	研究旅行の下見報告 ※ＰＴＡ授業参観	第一総合
3	４／25	プレ研究① （グループ分け、内容検討）	ＨＲ
4	５／23	プレ研究②	ＨＲなど

5	6／27	プレ研究発表会	ＨＲ
6	9／12	映画「ＧＡＭＡ－月桃の花－」	野依記念館
7	9／26	研究グループ（旅行班）結成 研究テーマの検討と決定	ＨＲ
8	10／3	研究テーマ決定、ＦＷ日程検討・交渉開始 ＦＷ先依頼文発送	ＨＲ

（後期）

9	11／7	ＦＷ質問内容検討	ＨＲ
10	11／14	沖縄研究旅行（１２日～１５日）	
11	1／9	ＦＷ発表会	ＨＲ
12	1／23	研究集録原稿締切	ＨＲ
13	2／6	総人クラス別発表会	ＨＲ
14	2／20	学年発表会	武道場
15	3／6	高校1年生への発表	ＨＲ

7、プレ研究

Ⅰ、高文研発行『沖縄修学旅行』輪読会

最初の３回の総人の時間は、プレ研究として､「沖縄とはどのような地域なのか、現在の沖縄にはどのような問題があるのか」を基本的な知識として学習した。具体的には『沖縄修学旅行』の章を分担して読み、プリントやＢ紙に内容をまとめて、担当部分の発表を行った。

Ａ、輪読の分担・・・８人のグループ（クラス内に５つのグループ）。

⑴『沖縄修学旅行』第６章の10のキイワードのうち、２つのキイワードをひとつのグループで担当（グループで重ならない）。

a「沖縄の三つの日付」　b「キーストーン・オブ・ザ・パシフィック」
c「二つの「政府」」　d「銃剣と「ブルドーザー」」
e「島ぐるみ闘争」　f「平和憲法下への復帰」
g「Ｂ52」　h「反戦地主」
i「海邦国体」　j「二つの「４．17」」

⑵『沖縄修学旅行』第１章から第５章のうち①～⑧の部分を、グループ内の８人で分担。

①第一章の１（p.8 ～ 27）
②第一章の２（p.27「中部・首里戦線―50日間の死闘」～ p.55）
③第一章の３（p.55「摩文仁の丘の慰霊碑群と沖縄戦の本質」～ p.84）
④第二章の１（p.86 ～ 115）
⑤第二章の２（p.115「沖縄の基地の”歴史”」～ p.138）
⑥第三章（p.140 ～ 166）
⑦第四章（p.168 ～ 211）
⑧第五章（p.214 ～ 244）

Ｂ、準備と発表

⑴第６章の部分（キーワード）
ひとつのキイワードについて、Ｂ紙１枚分で内容をまとめ発表した。

⑵グループ内輪読会
１人５分を目途に、それぞれ担当の箇所をグループ成員に発表した。

Ⅱ、映画『ＧＡＭＡ～月桃の花』の鑑賞

縄研究旅行で行われる平和講話の講師、安里要江さんをモデルにした映画を鑑賞した。

生徒の感想

私は映画が終わった後急にどうしようもない安心感に襲われた。今私たちの生きる場所には銃弾も飛び交わないし、死体を踏むこともない。何よりも青い空がとてもまぶしく感じられた。それくらい映画の中の出来事は壮絶だった。何度も目を背けてしまった。「これは映画なんだ、現実じゃない」と自分に言い聞かせないと冷静に見ていることができなかった。

体験していない私でさえ忘れがたい恐ろしさを感じたのだから、実際に体験した人はどのような気持ちだったのか想像するだけで胸が痛んだ。ただ聞くだけの私たちにとって、その体験を口にすることがどれほど大変か決してわかるまいと思った。きっと今でも、物語のおばあちゃんのように悲惨な事実を話そうとしない人は大勢いるはずだ。そんな中でもエンドロールには沖縄の人の名字がたくさんあり、彼らの強い思いと勇気に感動した。

また、映画の中ではアメリカ人と日本人の間で戦争や基地問題について大きな認識の違いがあることが描かれていた。私は日本人だから日本人の意見に共感してしまったが、お互いにそうでは永遠に歩み寄ることはできないのではないかと思った。

今まで私は研究旅行についてあまり深く考えてはいなかった。しかしこの映画を通して「沖縄」へ行くという重みを改めて感じることができた。沖縄へ行ったら、戦争のことも含めいろいろな面から沖縄を見て、国際平和とは何か、戦争とは何かを考えたい（Ｃ組　女子）

8、沖縄研究旅行

◎1日目　11月13日（火）　<u>生徒集合（中部国際空港アクセスプラザ）７：30</u>

中部国際空港－(JTA253便）－那覇空港＝＝嘉数高地＝＝
8：50　11：20　12：00　12：45　13：50
＝＝平和祈念公園（韓国人慰霊の塔・平和の礎・資料館＝＝ひめゆりの塔＝＝
14:40　15:00　15:20　16:20　16:30　17:30
＝＝ホテル・那覇　夕食後　平和講話（安里さん）
18:00　18:30　20:00　21:00

◎２日目　11月14日（水）

那覇＝＝沖縄陸軍病院南風原壕・南風原文化センター＝＝魂魄の塔＝＝

8:20　9:00　11:00　11:20　11:50

＝＝国際通り（自由散策 牧志駅下車…県庁前出発）＝＝首里城＝＝

12:30　15:30　15:50　17:10

＝＝ホテル・那覇　夕食後　エイサー体験

17:30　18:30　20:00　21:30

◎３日目　11月15日（木）

那覇＝＝＝＝＜終日　タクシーにて班別研究＞＝＝＝＝ホテル・読谷

8:30 ～ 9:00　16:30 ～ 17:30

◎４日目　11月16日（金）

読谷＝＝琉球村＝＝道の駅かでな＝＝那覇空港－（JTA254便）－中部国際空港

8:15　8:30　9:40　9:55　10:15　11:05　12:05　14:00

9、フィールドワーク先一覧

A組	研究テーマ	訪問先
１班	基地の存在意義	沖縄平和運動センター
		沖縄国際大学
２班	基地問題に対する様々な視点	知事公室地域安全政策課
		学校法人興南学園 興南高校
３班	陸から見た自然	琉球大学
		NPO法人 どうぶつたちの病院
４班	食文化	首里天楼
		読谷村漁業協同組合
５班	沖縄らしさ	沖縄老人クラブ連合会
		沖縄県立博物館
６班	沖縄戦と平和 －その後の国際環境－	沖縄県護国神社
		沖縄国際平和研究所

B組	研究テーマ	訪問先
１班	ガマの真実 ―悲劇の沖縄戦―	島守の会
		島守の会小原さんとともにガマ見学
２班	基地と平和	沖縄県庁基地対策課
		県立首里高校
		沖縄防衛局
３班	沖縄の芸術文化	国立劇場おきなわ
		沖縄県立芸術大学
４班	自然環境と平和	ＮＰＯ法人美ら海振興会
		沖縄ネイチャーウォーク
５班	世界から見た沖縄	沖縄県庁国際交流課
		おきなわワールド
６班	食の伝統からみる沖縄の考え方	第一牧市公設市場
		沖縄県立博物館

C組	研究テーマ	訪問先
１班	食文化から見る国際理解	南風原町総合保健福祉防災センター
		よんなーフード
２班	エゴイズムと沖縄	琉球大学法学部総合社会学科
		沖縄国際大学社会学科
３班	沖縄の大自然を探る	琉球大学農学部亜熱帯環境科学科
		琉球大学熱帯生物圏研究センター
４班	芸術	国立劇場おきなわ
		沖縄県立芸術大学
５班	戦前の“オキナワ”と戦後の“ＯＫＩＮＡＷＡ”～教育と子供たち～	沖縄県教育委員会教育課
		沖縄大学人文学部こども文化学科
６班	「人」 ～戦時中の生活と思い～	ひめゆり平和祈念資料館
		沖縄平和ネットワーク事務所

10、成果と課題

一年間を通して、国際理解と平和をテーマにそれぞれの課題を見つけ、各自探究してきたが、やはり沖縄研究旅行に関しての感想が多くあった。「ひめゆり平和記念資料館。今回の研究旅行で多くの資料館を見学しましたが、最も印象に残っているのはこの資料館です。私たちと同じ年頃の少女たちが数多く戦争の犠牲になったということは知っていました。しかし、実際に現場で見たものはあまりに衝撃的でした。ひめゆり学徒隊一人一人の遺影と、一人一人の紹介文を見ていくと言葉にならない悲しみがこみ上げてきました。手榴弾を胸に当てて自決した方。どの方の紹介文も読んでいて苦しくなる様な死で終わっていました。彼女たちの顔とガマの暗闇が重なって強く印象に残っています。ガマの中は、本当に真っ暗で何も見えませんでした。私たちは怖くなったら懐中電灯をつければいいし、辛くなったら外に出ればいい。しかし、彼女たちはそうすることもできずに亡くなっていきました。戦争というものの恐ろしさを痛感しました。」（A組女子）といった追体験の結果から戦争の怖さを再認識した生徒が多かった。また、フィールドワークを通して自分たちの課題を追求していった生徒たちは「今回の学習を通して自分たちの考え方や見方に先入観が存在し、大きな偏りがあることを実感した…一方的に自分たちを肯定し、他を否定する。そんなものの捉え方こそが人と人との衝突であり、その衝突の規模が国家間となったものの究極の形態が戦争なのだろう」（米軍基地問題を探究した男子生徒）といった実地に赴き、書籍からの学習では偏る知識を是正する必要性を訴えた意見があった。同じく基地問題に関して別の視角から探究した感想もあった。「今回考えたことはマスメディア

の重要性についてです。例えば海兵隊の一作戦がアメリカ軍・政府の方針として報道されたりすることがあるが、実際はアメリカ軍・日本政府だけの問題ではなく、日本国民全体の問題です。そのためにも、真実を国民に知ってもらる義務をマスメディアには果たしてもらいたい。」国民に対して知るための保障をマスメディアが担っているとしたら、現在の在り様はどうなんだろうか。という疑問を提議した感想である。多角的な社会の見方にそれぞれ気づいた意見であったように思う。食文化と平和の視点から探究した生徒たちもいた。「…調べる前は、豚足やゴーヤチャンプルー、沖縄そばなどの沖縄名物と呼ばれるようなものしか思い浮かびませんでした。しかし、実際に調べてみると、沖縄はアメリカに占領された後からはファーストフードなどの「肉「脂肪分」「塩分」といったものや、チョコレートなどの「糖類」など、およそ健康からはかけ離れたものが中心の食生活に変わってしまっている。かつて世界でもトップレベルの平均寿命を競っていたにも関わらず、アメリカ占領以後の沖縄県民の平均寿命は日本でもかなり低い順位となってしまっている。」といった戦後のアメリカ占領期に食文化でもアメリカの影響を激しく受けた現実を知る機会を持ったようである。戦争のもたらした惨禍は、戦後も永く影響を与え続けており、その実態を知る良い機会となったようである。

今後の課題としては、沖縄戦体験者の減少にどう対応していくのか、といった学習分析の方法の検討を急いで行う必要がある。

（文責：中野和之）